

診断参考レベル 2025 の解説と線量測定講習会 2025

— 診断透視編 —

今年 7 月、「日本の診断参考レベル(2025 年版)ーJapan DRLs 2025ー」が J-RIME(医療被ばく研究情報ネットワーク)より発表され、診断透視領域に新たに手術室で利用されている移動形 X 線透視装置の手技が追加されました。2020 年から線量の管理・記録が法制化され、線量の把握が重要となってきています。

千葉アンギオ技術研究会では、例年 4 月に血管撮影領域の線量測定講習会を開催していますが、今回診断透視領域を中心に診断参考レベル 2025 の概要を解説するとともに、DRLs2025 から参考値として取り入れられた透視装置の線量測定について、実地形式講習を**マルチハイブリッド形式**(現地参加、WEB ライブ参加、聴講のみ)で開催します。

受講資格などはありません。診断透視領域の診断参考レベルにご興味のある方、据置形 X 線透視装置や移動形 X 線透視装置の線量測定を学んでみたい方のご参加をお待ちしております。なお、参加者の皆さまとコミュニケーションを取りながら講習会を進めますので、WEB ライブ参加者定員を 20 名程度とさせていただきます。応募者が多数となった際には、施設単位でのご参加をお願いすることがございますのでご了承ください。

本講習会に参加された方には「日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構」の認定・更新の 1 ポイント、「日本救急撮影技師認定機構」2 ポイントが付与されます。

第 1 部の教育講演では、診断参考レベルの概要とともに、診断透視領域における DRLs2020 からの改訂点や押さえておくべきポイントを解説します。実習前講義では、据置形・移動形 X 線透視装置に関する基本用語や線量計など機器の特徴を説明し、線量管理の基準となる装置表示値の読み方と透視線量率および撮影線量の測定方法を解説します。さらにワンポイントレクチャーでは、各種メーカー装置で実際に線量測定を行った経験をもとにポイントをお伝えします。第 2 部の実習では、実際に据置形・移動形 X 線透視装置を操作しながら測定を行い、理解を深めていただきます。そして、第 3 部で実習の振り返りと講義、質疑応答を通して理解を定着していただきます。講義と実習が連動した構成で、知識と技能の両面を効率よく習得できるプログラムとなっています。

日 時:2025 年 12 月 13 日(土) 会場 12 時 30 分:開始 13 時

開催形式:マルチハイブリッド開催:現地参加、WEB ライブ参加(Zoom ウェビナー)、聴講のみ(Zoom ミーティング)

開催場所:千葉大学医学部附属病院 放射線部内

定 員:現地参加 10 名程度、Web 参加 100 名(WEB ライブ参加 20 名程度)

参 加 費:500 円 現地参加 10 名程度、第 2 部 WEB 参加先着 20 名程度

第 2 部のみの申込はできません。

WEB ライブ参加とは:現地参加の方と一緒に測定等体験していただきます。

現地参加の方には、QUO カード(500 円分)を進呈

応募期間:2025 年 11 月 9 日(日)~12 月 6 日(土)

第1部 (13:00～)

ー教育講演ー

司会 千葉大学医学部附属病院 加藤 英幸

診断透視領域の診断参考レベルの解説

ーDRLs2020 からの改正ポイントと課題と今後の取り組みについてー

講師 新潟大学医歯学総合病院 新田見耕太

ー実習前講義ー

透視装置の装置表示値の理解と患者照射基準点での線量測定法の理解

講師 千葉大学医学部附属病院 田岡 淳一

ーワンポイントレクチャーー

各種メーカー・装置での線量測定の実際 ー実測からみる各社装置の違いー

講師 東千葉メディカルセンター 渡邊 一寿

第2部 (14:30～)

司会進行 千葉大学医学部附属病院 田岡 淳一

ー診断透視領域の線量測定を理解しようー

据置形X線透視装置と移動形X線透視装置の測定実習

講師 千葉大学医学部附属病院 竹生 健太

帝京大学ちば総合医療センター 滝口 孝行

第3部 (～17:00)

司会 千葉大学医学部附属病院 加藤 英幸

ー実習後講義と質疑応答ー

測定結果の確認とデータの活かし方

講師 千葉大学医学部附属病院 田岡 淳一

申 込 先: 千葉アンギオ技術研究会ホームページからお申込みください。

<http://cats.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=34758>

※ 申込みには「m3.com」の ID が必要となりますので、お持ちでない方は ID 取得を行ってから参加申込みをお願いします。